

深谷市水道事業品質管理基準

工種	管理項目・管理箇所・形状・規格・寸法			規格値	測定頻度	記録頻度			
管布設工	トルク	メカニカル	75mm	ボルトの呼び M16	60N・m	全継手	40mに1箇所		
			100～600mm	ボルトの呼び M20	100N・m				
			700mm～	ボルトの呼び M24	140N・m				
		フランジ	75～200mm	ボルトの呼び M16	60N・m			全継手	1路線に1箇所
			250～300mm	ボルトの呼び M20	90N・m				
			350～400mm	ボルトの呼び M22	120N・m				
			450～600mm	ボルトの呼び M24	260N・m				
	NS	NS継手	75～450mm	ラゲ有・無	受口面～ゴム輪間隔(b)＜受口面～ゴム輪の最大寸法(c)	継手毎(円周8箇所)	フェットシートとして全て		
				異形管	①バックアップリングの向き：テーパー部が挿入端面側にあること。 ③押輪-受口間隔：最大値-最小値≦5mm(同一円周上) ④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。				
			300～450mm	異形管	①バックアップリングの向き：テーパー部が挿入端面側にあること。 ③押輪-受口間隔：最大値-最小値≦5mm(同一円周上) ④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。 ※現場で明示したマーク(白線)上に受口端面があること。				
		500mm～	通常部	①バックアップリング向き、分割部の位置： (1)バックアップリングの羽根部がゴム輪内にあること。 (2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。 ②挿入量確認：白線Aの中に受口端面があること。 ③押輪～受口間隔：最大値-最小値≦5mm(同一円周上) ④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。 ⑥白線B～受口間隔：最大値-最小値≦X	継手毎(円周8箇所)	フェットシートとして全て			
			ラゲ使用異形管	①バックアップリング向き、分割部の位置： (1)バックアップリングの羽根部がゴム輪内にあること。 (2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。 ②挿入位置の確認：現場で明示したマーク(白線)上に受口端面があること。 ③押輪～受口間隔：最大値-最小値≦5mm(同一円周上) ④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。					
	GX	GX継手	75～400mm	直管・P-Link	①挿入位置の確認： 白線Aの中に受口端面があること。 ②受口～ゴム輪間隔： 受口面～ゴム輪間隔(b)が以下の合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合には、チェックできなかったことを記載すること。 《b寸法の合格範囲》 直管 Φ75 8～18mm P-Link Φ75 54～63mm Φ100 8～18mm Φ100 57～66mm Φ150 11～21mm Φ150 57～66mm Φ200 11～21mm Φ200 63～72mm Φ250 11～21mm Φ250 63～72mm Φ300 14～24mm Φ300 70～80mm Φ400 14～25mm	継手毎(円周8箇所)	フェットシートとして全て		
				異形管・G-Link	①挿入位置の確認： 現場で挿入口に明示した白線が、受口端面の位置まで全周にわたって挿入されていること。 ②受口～押輪(G-Link)間隔： 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。				
				継輪	受口～押輪(G-Link)間隔： 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。				
耐圧	配水管			0.75MPa 15分間	可能な限り全管 全箇所	測定箇所全て			
	給水管			1.75MPa 1分間					
	割T字管	穿孔前	既設管：DCIP, HIVP	0.75MPa 15分間					
			既設管：ACP	0.75MPa 15分間					
	分水サドル	穿孔前	既設管：DCIP, HIVP	0.75MPa 1分間					
既設管：ACP			0.75MPa 1分間						
路盤工	下層	現場密度の測定		個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上	1,000㎡につき1個 1舗装種類につき1箇所以上	測定箇所全て			
		$\bar{X}_{10}$ が最大乾燥密度の95%以上							
		$\bar{X}_6$ が最大乾燥密度の96%以上							
		$\bar{X}_3$ が最大乾燥密度の97%以上							
		$X_1$ が最大乾燥密度の98%以上							
	フルフローリング		---						
	上層	粒度	2.36mm	---					
			75μm	---					
		現場密度の測定		個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上	1,000㎡につき1個	測定箇所全て			
		$\bar{X}_{10}$ が最大乾燥密度の95%以上			1舗装種類につき1箇所以上				
$\bar{X}_6$ が最大乾燥密度の95.5%以上									
$\bar{X}_3$ が最大乾燥密度の96.5%以上									
$X_1$ が最大乾燥密度の98%以上									
アスファルト本復旧	表層・基層	平坦性	表層のみ	標準偏差 足付き直読式凹凸測定器≦1.75 3m <sup>2</sup> の1/4m <sup>2</sup> ≦2.4	平均舗装幅が3m以上又は道路全幅舗装する場合で、施工量が1,000㎡を超えるときののみ行い舗装全線測定を原則とする。	測定箇所全て			
		現場密度の測定 (コアの密度)		個々の測定値が基準密度の94%以上	1,000㎡につき1箇所	測定箇所全て			
		$\bar{X}_{10}$ が基準密度の94%以上			1舗装種類につき1箇所以上				
		$\bar{X}_6$ が基準密度の96%以上							
		$\bar{X}_3$ が基準密度の96.5%以上							
	$X_1$ が基準密度の98%以上								
	7スラム量		---						
	粒度	2.36mm	---						
		75μm	---						
	歩道	現場密度の測定 (コアの密度)		個々の測定値が基準密度の88%以上	1,000㎡につき1箇所	測定箇所全て			
$\bar{X}_{10}$ が基準密度の89.5%以上			1舗装種類につき1箇所以上						
$\bar{X}_6$ が基準密度の89.5%以上									
$X_1$ が基準密度の92%以上									
温度測定	初期締固前	110℃以上		トラック1台ごと	測定値の記録は、 最大1日4回				
外観検査	目視	---							
すべり抵抗試験		---							